専門委員会委員意見

委員名	議題１　2019年度事業の点検・評価及び2020年度の事業計画について			議題２　愛知芸術文化センター運営会議での報告者の選任について
	①　2019年度事業の点検・評価について	②　2020年度の事業計画について	③　その他意見・提言等	
伊藤委員	ご報告について、了解いたしました。 全体的に順調に運営がなされていると理解いたしました。 入館者数も問題はないようですが、環境整備と関連してＹＡ世代の利用者が来館しやすい（滞在しやすい）工夫を継続いただくことを希望しています。	個人的に最近のＳＮＳ（ツィッター）での情報発信は充実していると感じており、今後もさらにより良い情報発信となることを期待しております。（資料１第３－２－①）外国人の情報利用行動をふまえると、ＳＮＳと多文化サービスとの連携も可能かもしれません。 また今般の特殊な状況をふまえ、安全を確保しつつサービスを継続されることの工夫についても期待しております。個人的に予約サービスを利用しましたが、とても助かりました。近隣の図書館と連携した返却処理など検討の余地があるでしょうか。（資料１第３－２－③、④）	学習活動支援について、県立学校（主に高校）については理解できますが、その他の校種について各自治体とどのように連携されることをご検討でしょうか。 博物館、公文書館との連携において、例えば資料補修研修など、実地に即戦的な内容もあるとよいと思います。 30周年記念を楽しみにしております。 デジタル化に注力されていることを企画に生かせるとよいと思います。 （カレントアウェアネスＢＬについて参照）	同意
魚住委員	【資料２　項番9　取組み状況１つ目の・】 「協力貸出のデータ」は愛知県図書館の基本的な運営方針後半５年の行動計画で示す行動目標⑤の結果であって、行動目標⑨との相関は必要ない。協力貸出で求められる機能や需要の実際として、分析された意義は大きい。 重点収集資料である専門的資料は禁帯出などの事情もあり、相互貸借による利用よりも県図書館への直接来館利用が多いと思われる。そこで行動目標②④⑦が生かされてくると考えるべき。 「購入リクエスト」を分析したら、購入リクエストに期待されている機能や需要しか出てこないので、まず、市町村立図書館の何の需要を把握したいのかはっきりさせるべき。（一図書館員のコメントとしては、購入リクエストは自館基準により利用しづらく、数年に１回しか出しておりません。） 【資料２　項番9　取組み状況２つ目の・】【資料１別表　項番R2-9（蔵書評価）】 他図書館と比較したら、強みを見つけ出してほしい。模倣や補完に気を取られすぎず、分担所蔵も検討してほしい。必要な人に必要な資料が必要なときに届くことが大事。パスファインダーやレフェラルサービスとしてつなぐための連携、相互貸借の物流速度、災害による損失も見込んだ、愛知県らしさのある蔵書を期待する。	【資料１別表　項番R2-1（外国人県民の方へのサービス）】 名古屋国際センターのライブラリーと連携してほしい。県図書館が資料収集することも大切だが、専門機関との連携・支援も必要と考える。例えば、相互貸借の対象にセンターを入れられないか。つながりがあれば、各種相談もしやすい。市民より外国語資料の寄贈があった場合に通函に載せて寄託できると助かる。 【資料１別表　項番R2-6（図書館員の研修）】 県内市の図書館に勤務していても、研修のチラシやメールは回覧されない場合が多い（非常勤であるためなどの理由）。個人で登録できる掲示板やメールマガジンがあれば、開催を知ることができると思う。勤務時間内に仕事として研修に参加できることが望ましいが、出張費など出せない事情もあることから、勤務時間外でも参加できる講座や情報共有システムがあってもよいのでは。 【資料１別表　項番R2-7（博物館、公文書館等との連携）】【資料１別表　項番R2-9（社史等ものづくり関係資料の受入れ）】 トヨタ産業技術記念館の図書室と連携してほしい。県図書館が資料収集することも大切だが、専門機関との連携・支援も必要と考える。貸出は行っていないので相互貸借は諦めるが、横断検索に期待する。愛知のメイン産業に関する資料が豊富である上、同館へは多くの外国人県民も関心を寄せているため、R2-1と合わせて連携できると相乗効果が望めるのでは。 【資料１別表　項番R2-8（ＳＮＳの活用）】 YouTube動画で「こんな質問ありました」など一緒に調べものをするような、気軽に見られたり、地元感があったりするようなチャンネルを制作してみては。「自分も調べてみよう」「こんなこと聞いていいんだ」「その答え、途中だよ。知ってるよ」など反応があるかもしれない。 【資料１別表　項番R2-8（開館30周年事業の企画）】 LINEのスタンプを無料配布してほしい。「あいぞうくん」や「Yotteko」などキャラクターやキーフレーズはすでにあるので、親しみやすさの一つとして良いのでは。	【資料１　第３　２　③危機管理 ④「新しい生活様式」に対応した図書館サービスの検討と実施】 今回は資料そのものが汚破損する危機とは異なり、利用する場が設けられないことに起因している。郵送や送信など手段はあるので、禁帯出や著作権の制限を調整できるかが課題と思われる。郵送費を出してでも読みたい、調べものに必要という声は実際にある。 「非来館型サービス」の中に、移動図書館や貸出文庫にヒントを得るような、図書館側が出向く、旧来サービスの再検討があってもいいかもしれない。小規模・同地区人による運営・短時間での受渡しが円滑であれば、少しは需要に応えられるのではないか。 【資料１別表　項番R2-3（子供読書活動のためのアウトリーチ活動の推進）】 地元の小・中学校図書館では、書誌作成できる人材が少なく管理が不十分である。定期的な蔵書点検もできていない。また、情報の古い資料でも学校図書館図書標準のために除籍できないなど、助言や支援を必要としている。おそらく県内他市町村の多くの学校図書館も同様と思われる。安価で簡易なシステムの開発や寄贈本の再分配など、旗振り役になっていただけると助かる。 【資料１別表　項番R2-4（あいちラストワン・プロジェクトの拡大）】 とても良い事業である。難を言えば、１年に１度データを突合させる期間を短くできないか。ラストワン資料か判別できない期間は、各図書館とも除籍できず業務が滞っていると思われる。 【資料１別表　項番R2-5（市町村立図書館等への協力貸出）（資料搬送定期便の維持）】 市民向けに横断検索のやり方や相互貸借のしくみを説明したA4両面カラーのチラシなど作成できないか。利用促進・理解につながると思う。	同意

委員名	議題１　2019年度事業の点検・評価及び2020年度の事業計画について			議題２　愛知芸術文化センター運営会議での報告者の選任について
	①　2019年度事業の点検・評価について	②　2020年度の事業計画について	③　その他意見・提言等	
梶原委員	24 の事業項目のうち、 A 評価および B 評価の合計が 90 %を上回っており、全体として愛知県図書館の取り組みが実を結んでいると考えられる。C 評価の「協力貸出・相互貸借」については、相手方からの需要という問題もあるので、県図書館側の努力のみで達成できるとも限らない だろう 。同じく進捗が遅れているという結果となった「講師派遣等の回数」についても、相手方の要望もある点では協力貸出同様の問題があることを考慮すると 、そもそもの数値目標が高すぎたと見なすこともできる。 ビジネス支援、利用講座、行政機関との連携、地域連携といった「地域の課題解決に役立つ図書館サービスの提供と拡充」が予定を上回る効果があり、着実に進捗しているという結果となったことは、地域に根ざした公共図書館としての役割を十分に果たしていることの証左であるので、とくに高く評価できる。	新型コロナウィルス感染症拡大防止のための対策を取らざるをえないので、入館者数などの数値目標の 60 %を目標の目安とするのは妥当である。 また、 2019 年度事業の点検を受けて、「協力貸出」および「 講師派遣・成果発表」についても適切な数値目標の見直しと再設定がおこなわれている。 また、 障害者や高齢者や外国人向けのサービスの多岐にわたる質的向上が目指されている点も高く評価できる 。 いっぽう若年層へ向けてのSNSでのアウトリーチについてはやはり再考が必要かもしれない。 というのも、ホームページの充実や YouTube といった媒体は 「 アクセスを待っている」 受動的な側面が強く、積極的に「訴えかける」 には、 インスタグラムや ツイッターの充実のほうが効果的ではないだろうか。 貴館の ツイッター ・アカウントを拝見したが写真がぼけているなど改善の余地は十分にあると思われる。	本年度は先が見通せず困難な年となりそうですが、ご尽力に期待申し上げます。	同意
大道委員	専門委員会委員からの意見を積極的に取り入れて、事業内容の充実に向けて努力されたことがよくわかりました。 その結果が、地域の課題解決に役立つ図書館サービス、資料保存・デジタル化、市町村立図書館の支援の着実な進捗という成果として現れたものと考えます。	「新しい生活様式」に配慮した事業計画を策定されていると思います。 その中でも、郵送貸出サービスや電子書籍等の非来館型サービスについては、感染症拡大対策のみならず、現役サラリーマン等、従来、図書館をあまり利用しなかったと思われる年代層の利用拡大にもつながると思いますので、一層の充実が望まれます。	今後とも、拠点図書館として、市町村立図書館の蔵書の補完、県内図書館相互の連携強化及び専門的な資料の収集に努めていただくよう希望します。 読書のバリアフリーを一層推進するために、障害の有無にかかわらず、すべての県民が読書に親しむことができる環境整備に向けた取組を充実していただきたいと思います。	同意
中井委員	一度、ご説明をお聞きしたかったです。	ステイホームで外出できない時期の図書館サービスの在り方。出れないなら、こちらから近くまで出向く、配送するサービスなどの検討を。	愛知県内、あるいは近隣の三重県、岐阜県でのコロナで緊急事態発令（発出）中の各館でのサービス実態の収集と保存を。未来に向けて記憶して頂きたいと思います。	同意
福島委員	新型コロナの影響により臨時休館となり、さまざまな運営指標において進捗率が十分に伸びなかった点は、やむを得ないことと考えます。むしろ、２月までの活動をもとに見ても、一定の成果が認められる点は、評価できることであります。	資料１第３にある「愛知県図書館新型コロナウイルス感染症対策に対応したサービス提供段階表」については、新型コロナが終息することを前提とした計画であります。終息することが望ましいわけですので、この計画自体は結構です。資料１別表にも、New!で示された新規事業が多数計画されており、意欲的な姿勢がうかがえます。 一方、第二波・第三波が到来したり、貴館でクラスターが発生したりして、再度臨時休館にせざるを得ない場合への対応について準備しておく必要があります。資料１第３の２「④　「新しい生活様式」に対応した図書館サービスの検討と実施」が、これにあたると考えます。とりわけ、サービスの提供について、実効性のある具体的な対策を早急に検討していただき、速やかに公表・実施していただけますと利用者が安心できます。	貴館の関係機関への協力について、教育委員会主催の「高校生ビブリオバトル愛知県大会2019」や、愛知県学校図書館研究会高等学校部会主催の「実務講習会」に会場提供していただいたりするなど、県立高等学校が関わるさまざまな事業に、いろいろな形で御協力いただきましたことに感謝申し上げます。 また、県立高等学校の特色や取組を、１階のエントランスで紹介していただく事業は、県民に対する県立高等学校の貴重な広報の機会となっております。関係者として感謝いたします。今後も継続していただけるとありがたいです。	同意

委員名	議題１　2019年度事業の点検・評価及び2020年度の事業計画について			議題２　愛知芸術文化センター運営会議での報告者の選任について
	①　2019年度事業の点検・評価について	②　2020年度の事業計画について	③　その他意見・提言等	
山田委員	入館者がコロナ騒動前までに前年比増となったことは評価できる。 協力貸し出しの内容を調査したのはよかった。実態掌握へ、さらにジャンルなど細かい調査をするといいと思う。	コロナ騒動で、感染症対策とこれからの図書館の在り方への変化が生じたと思う。恒常的な感染対策を盛り込んだ具体策を進めてほしい。 これからの図書館の在り方が変化したと思う。来館者を増やすことが必ずしも目標ではなくなった。別の姿としては、協力貸し出し、電子化などが選択肢にあると思う。 協力貸し出しは重要だが、税金も使うことになる。より有意義なシステムとするためには、貸し出す本を限定することが大切だと思う。身近で手に入る本は自分で購入してもらい、手に入りにくい本をたくさんの人に貸し出すことが有意義な使い方だと考える。そのために現状をしっかり調査し、発行年の古いものや、値段やジャンルなど、どういう制限をつけたら、費用に見合う有意義な貸し出しになるか研究してほしい。 電子化は理想を掲げ最終形の設計図を描いて大々的に行うと、費用や労力がかかり、なかなか始めることができにくい。模索する中で一歩を進めることで課題やよりよい形が見えてくると思うので、業者の案と見積もりを取るというスタンスを捨てて、まず職員が自分たちで試行錯誤して一歩初めてほしい。	コロナ騒動は感染症対策や職員の在宅勤務などの対策に追われ大変だったと思う。先行きも見えず、その場その場での対応とならざる得なかったことも想像できる。ただ、貴重な３か月の休館で、現実には職員の手は空いていたと思うので、その期間を使った、日ごろの大きな課題解決をなにか一つ着手できるとよかった。例えば書架の全面並べ替えや電子化着手なども可能だったかもしれない。それには日ごろから次のテーマをしっかり持っていることが必要で、今回そうした大きなテーマへの対応は報告書にはないようだが、感染症対策の他に貴重な３か月だったことも胸にとどめるといいように思う。	同意
山本委員	来館者の年代の割合を見ると、20代～40代の働く世代の割合は低い。一方で趣味・娯楽のための利用目的が多いことからも「退職後の時間にゆとりのある人々が娯楽のために利用する」という一般的な図書館の利用者像が見えてくる。仕事やくらしの中で図書館を活用して学ぶということを日常のものとしていくためにできることを引き続き検討して頂きたいと思う。	高齢者のための「健康講座」とあるが、“高齢者のニーズはこういうもの”と対象の関心を規定することなく、多様なニーズ、利用者像を把握して学ぶ機会のプログラムをしていただきたい。 子育て中の方へのサービスも同様で、子育世代＝子育てについての話題だけが関心事ではない。多様なライフスタイル、価値観を持つ一人の個人であることを考慮してほしい。“子育てのための情報”と捉われず、子どもを育てながら学ぶことを楽しむという視点で考えて頂きたいです。	ヨッテコは市民活動や協同学習に取り組むあらゆる世代に必要とされるスペースであると思うので、場の存在をもっとPRしてもよいのではと感じる。 図書館の資料の活用の促進につながり、地域の人と人がつながる場である図書館の「知」と人の「知」が有機的につながる可能性があると思う。そのような場となっていくようなテーマ展示やプログラムを企画してもよいのではと思う。コロナウイルスの中で「できない」ことに目が行きがちになるが図書館、知のインフラの意義を社会全体で共有することの大切さを感じている。	同意
吉村委員	協力貸出の流通状況の調査について。市町村立図書館からの購入リクエストの分析からもニーズの把握は可能だと思いますが、市町村立図書館が、リクエストを受けてそれを購入ではなく、県から協力貸出で対応する基準を調査されるのも良いのではと思います。	数値目標の60％目安の設定について。情報発信と人材育成に係わるものの指標は、今後の課題とされているので、一律60％ではなく、高めの設定としてはどうでしょうか。	市町村立図書館は、県図書館からの支援を大いに期待しております。今般のコロナ禍のような時は、（資料１）の2/2にあるような「愛知県図書館～サービス提供段階表」等を早い段階でお示しいただきたかったと思います。	同意